

令和7年度第1回石狩市総合戦略推進懇話会 議事録

【日 時】 令和7年8月1日（金）13：30～14：40

【場 所】 石狩市役所 5階 全員協議会室

【出席者】 13名（17名中）

役職	氏名	出欠	役職	氏名	出欠	役職	氏名	出欠
会長	角川 幸治	○	委員	尾方 哲	○	委員	釣本 峰雄	○
副会長	住吉 赴夫	×	委員	河野 明美	○	委員	中野 勝也	○
委員	秋田谷 順子	○	委員	小山 玲子	○	委員	野村 彩夏	○
委員	石上 千里	○	委員	佐々 茉奈美	×	委員	林 敏樹	○
委員	石田 琢磨	○	委員	白井 かの子	×	委員	船木 幸弘	×
委員	伊藤 朱美	○	委員	高宮 則夫	○			

※正副会長を除き、あいうえお順

【オブザーバー】 北海道石狩振興局地域創生部長 矢野 敦子

【事務局】 企画政策部長 小島 郁也、企画課長 大川 実、企画課主査 上原 範照
企画課主査 吉田 有絵、企画課主任 平野 開人、企画課主任 山崎 将平

【傍聴者】 0名

【事務局（大川課長）】

本日は、時節柄お忙しいところ、ご出席をいただき、誠にありがとうございます。定刻となりましたので、ただいまから令和7年度第1回石狩市総合戦略推進懇話会を開催いたします。私は今年度より企画課長となりました事務局の大川でございます。よろしくお願いいたします。開会に先立ちまして、石狩市総合戦略推進懇話会事務局長であります企画政策部長の小島よりご挨拶申し上げます。

【事務局長（小島部長）】

企画政策部の小島でございます。本日は、大変お忙しい中、ご出席をいただきましてありがとうございます。また、日頃より本市のまちづくり行政におきまして、皆様から多大なるご理解とご協力をいただいておりますことを、重ねてお礼を申し上げたいと存じます。

昨年度は第3期総合戦略の策定にあたり、懇話会委員の皆様から多大なるご協力を賜り、改めて深くお礼申し上げます。今年度におきましても、今回が第1回目の懇話会となりますが、引き続きよろしくお願いいたします。

第3期総合戦略の策定にあたり、昨年度の懇話会において、見込みも含め第2期総合戦略の各目標に対する時点評価も行っておりますが、今回の懇話会では、その時点以降の実績値について、大きな相違がないかをご確認いただきたいと存じます。

国におきましては、令和7年6月13日に「地方創生2.0」基本構想が策定され、これまでの様々な取組に加えて、AI・デジタル等の新技術の徹底活用や「民」の力を活かす官民連携の強化など、時代の変化に対応した新たな取組により、持続可能な地域社会の実現を目指すものとなっております。

本市におきましては、国の基本構想を踏まえ、第3期総合戦略について、適宜必要な見直し等を行いながら、各施策を実施してまいりますので、懇話会委員の皆様には、引き続きご協力いただきたいと思います。簡単ではございますが、私からのご挨拶とさせていただきます。

【事務局（大川課長）】

次に、事務局のメンバーにつきましても、人事異動により一部入れ替わりがありましたので、ご挨拶をさせていただきます。

企画課主査の上原です。

企画課主査の吉田です。

企画課の平野です。

企画課の山崎です。

以上となりますので、皆様、よろしく願いいたします。

次に、本日ご出席をいただいておりますオブザーバーの方をご紹介します。石狩振興局地域創生部長の矢野敦子様でございます。

【オブザーバー（北海道石狩振興局地域創生部長 矢野氏）】

よろしく願いいたします。

【事務局（大川課長）】

あらためまして矢野部長、本日はどうぞよろしく願いいたします。それでは、この後の進行につきましては、角川会長にお任せいたします。

【角川会長】

会長の角川でございます。どうぞよろしく願いいたします。

新しい事務局の大川課長以下とお話をさせていただいたわけですが、なんだかんだ私も10年以上会長をやらせていただいて、年というわけではないですけども、なぜそんなこと言ったかと申しますと、その10年以上前から所属しているメンバーは、私と河野さんだけです。この2人だけがその当時から委員で、もう10年一昔って言いますけれども、今の感覚だともう二昔、三昔ぐらいの感じですよ。それでその時はAIなんていうものは存在しないわけです。しかし、今はもう仕事の中でも「ChatGPT」などを使っております。他の色々な会長の例えば挨拶文などそういうものに使っておりますし、正直もうネタバレですけど、ある会の、会長挨拶をAIの「ChatGPT」に作らせました。それをアレンジして読み上げたら、素晴らしい会長挨拶でした、などと言われまして、自分で喋ったら素晴らしいのに、AIで作らせたら素晴らしいという話になるのか、なんて思ったりしました。このような形で生活にAIが入り込んできていますが、こういうのは10年前だととても考えられないものでした。

本市を取り巻く環境というところでも同じように変化があり、イメージですが、10年前は財政的な部分というのが特に言われていました。お金がない、お金がないと。今お金があるかということ、決して潤沢にあるわけじゃないですが、10年少し前に比べれば少し楽になったかなというイメージです。なんでも絞って、経費節減が必要、という感じではない。この懇話会はそういう目的じゃないにしても、そういうテーマは必ず出ていたと思います。お金がないから、それならどうしようという話だったと思います。

また、データセンターは以前からありましたが、例えば洋上風力、そういったものも10年前はほぼ無かったです。そういった新しい産業分野が、この石狩市で増えてきたというのは、どちらかという喜びしいことと思っています。ですから、これから5年先、10年先というのはもちろんどうなるかわからないにしても、先ほど申し上げた、経費を絞っていこう、無駄を省いていこう、これももちろん大事なことでありますけども、さらに若い人がこの石狩市に来て住んでいただけるような、魅力的なまちというのを、昔から考えてはきましたが、さらに夢のある方向に持っていければ良いなということ、常に思っております。もちろん私も含めて、世代交代ということも考えていかなければならないと思っております。

本日は第2期が終了し、第3期の計画ができて、そのKPIについても、文言その他というのは、もちろん大事ですけど、今回については、自由に思ったこと、感じたこと、ご意見、ご要望も含めて、できれば全員にお話ししたいと思っております。時間は約1時間、2時半に終了予定しておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。それでは、次第に沿って進めてまいりますので、事務局から説明をお願いします。

【事務局（大川課長）】

それでは次第2、議題に進みます。まず本日の資料のご確認をお願いいたします。事前にお送りしております、【資料1】第2期石狩市まち・ひと・しごと創生総合戦略令和6年度実施事業の点検・評価、【資料2】第2期石狩市まち・ひと・しごと創生総合戦略実施事業一覧、【資料3】第2期石狩市まち・ひと・しごと創生総合戦略総括について、以上の資料につきまして、お持ちでない場合はお知らせください。また、冊子の「第2期石狩市まち・ひと・しごと創生総合戦略」をお持ちでない方もあわせてお知らせください

<資料ない方へ配布>

それでは早速、次第に沿って進めてまいります。まずは議題①「令和6年度実施事業の点検・評価」について、事務局から説明いたします。

【事務局（上原主査）】

資料1「令和6年度実施事業の点検・評価」について、ご説明させていただきます。これにつきましては、計画期間の最終年度であります、令和6年度単年度についての実績及び達成状況の一覧となります。まず、「1. 戦略目標別数値目標の達成状況について」であります。戦略目標6項目に対する各指標、全12指標のうち、令和6年度末時点では、一番右の欄の実績値のとおり、下線で表記してあります4指標が達成しており、8指標が未達成でした。次に裏面にいきまして「施策別重要業績評価指標（KPI）の実績について」であります。全65項目のうち、29項目が目標を達成しており、36項目が未達成でした。

なお、詳細につきましては、内容が重複する部分がございますので、次の議題②「第2期石狩市まち・ひと・しごと創生総合戦略の総括」にてご説明いたします。

【角川会長】

ただいま、事務局から説明がありました、議題①「令和6年度実施事業の点検・評価」について、ご意見等がございましたらご発言願います。

<意見等無し>

それでは、次に議題②「第2期石狩市まち・ひと・しごと創生総合戦略の総括」について、事務局から説明願います。

【事務局（上原主査）】

それでは、第2期総合戦略の総括についてご説明申し上げます。

資料2の「第2期石狩市まち・ひと・しごと創生総合戦略 実施事業一覧」をご覧ください。こちらは、6つの戦略目標ごとの具体的な施策において設定した、重要業績評価指標（KPI）について、各年度の実績、5年間の実績、令和6年度の取組内容の一覧となっており、右側の「5年間の評価」の欄には、第2期総合戦略が昨年度で計画期間を終えたことから、5年間の実績に対し、KPIが達成していれば「A」、達成していなければ「B」としており、達成していない場合はその要因を併せて記載しています。

具体例を挙げてご説明いたします。左側に番号を振っていますが、1番をご覧ください。こちらのKPI

Iは「まちづくり出前講座及びいしかり市民カレッジの講座参加者数 5年間で 15,000 人」としてはいますが、令和2～6年度の5年間の実績値（合計値）は8,323人であったことから、こちらの評価は「B：達成しなかった」となり、未達成の理由としては、新型コロナウイルス感染症の拡大防止を目的として事業を中止したため、となっております。

次に、2番をご覧ください。こちらのKPIは「介護予防活動等情報の集約・発信拠点の構築 5年間で1か所」としてはいますが、令和2年度～6年度の5年間の実績値（合計値）は1か所であったことから、こちらの評価は「A：達成した」となります。

このように、全65項目について掲載しております。

全65項目の詳細については割愛させていただき、資料3総括の説明に移ります。資料3の「石狩市まち・ひと・しごと創生総合戦略の総括について」をご覧ください。こちらは、昨年度末で計画期間を終えた、「第2期総合戦略」の総括についての資料となります。第3期総合戦略策定に向け、昨年度の懇話会でも時点で評価しておりますが、最終実績値を反映させ、5年間の取組について総括しております。

それでは早速ですが、1ページ目の「1. はじめに」をご覧ください。総合戦略策定の背景や、第2期総合戦略の計画期間満了に伴う今回の総括を踏まえ、第3期総合戦略を推進していく旨を記載しております。

次に、「2. 本市の現状」をご説明いたします。図1は令和2年度から令和6年度までの「総人口及び高齢化率の推移」を表したもので、表1は同期間の「自然動態及び社会動態の推移」を示したものになります。図1のとおり、本市の総人口は、令和2年度58,218人から令和6年度56,954人となり、1,264人減少しております。また、高齢化率は、令和2年度33.9%から令和6年度34.1%に微増しており、ゆるやかではありますが、人口減少及び高齢化が進んでいる状況にあります。次に、表1のとおり、自然動態については、死亡数が出生数を上回っている状況が継続し、自然減が続いています。しかし、社会動態については、令和2年度から令和6年度まで減少傾向ではあるものの、転入超過となり、社会増が続いております。

次に2ページ目ですが、総括となりますので、先に3ページ目の「4. 各戦略目標について」をご説明させていただきます。

3ページ目の「4. 各戦略目標について」をご覧ください。3ページから14ページまでは、戦略目標ごとに考察と数値目標及びKPIの達成状況を記載しています。こちらにつきましては、資料2の該当ページとあわせて説明させていただきます。3ページ「(1) 戦略目標1「新現役世代」が活躍する」をご覧ください。資料2において対応するページは、1、2ページになります。まず中央に記載の「①数値目標」ですが、「地域活動に関わりをもつ新現役世代の人数」は、令和6年度10,000人を目標としていましたが、令和6年度の実績は10,911人で、目標達成となりました。次に「自分の知識や経験を地域社会で活かしたいと思う60歳以上の市民の割合」について、こちらは市民意識調査によるものですが、令和6年度100%を目標としていましたが、実績は54.8%で、未達成となりました。

4ページの「②KPI」をご覧ください。全部で10項目あり、達成は2項目（20%）、未達成は8項目（80%）でした。2割の達成に留まりましたが、これは地域活動の開催数や参加者数を指標とする項目が、新型コロナウイルス感染症の拡大により中止や延期となったことが大きく影響しています。令和4年度以降は認知症カフェの開催回数やカラーリング大会の参加者数など、元の水準まで回復傾向が見られる項目もありましたが、目標の達成にまでは至りませんでした。また、高齢者の地域活動においては、運営者の高齢化や後継者不足なども未達成の要因となっていることから、関係機関等との課題や情報の共有、意識の醸成、運営方法など検討すべき点は多く、より丁寧な取組が必要であると考えます。

5ページ「(2) 戦略目標2「子育て力」をさらに発揮する」をご覧ください。資料2において対応するページは、3、4ページになります。「①数値目標」ですが、「令和6年度末における年少人口」について、

令和6年度6,100人を目標としていましたが、令和6年度の実績は6,454人で、目標を大きく上回っています。次に「子育てに関する様々な集まりに参加している（参加したいと思う）市民の割合」について、こちらは市民意識調査によるものですが、令和6年度50%を目標としていましたが、令和6年度の実績は37.3%で、未達成となりました。

6ページの「②KPI」をご覧ください。全部で8項目あり、達成は2項目（25%）、未達成は6項目（75%）でした。約3割の達成に留まりましたが、結婚や妊娠・出産を希望する方への支援に係る項目については、概ね目標を達成しており、令和3年度以降は待機児童数0人を維持できているなど、切れ目のない支援体制の構築を着実に進めることができたと考えます。

7ページ「(3) 戦略目標3「地域資源」からモノやしごとを創る」をご覧ください。資料2において対応するページは、5～8ページになります。「①数値目標」ですが、「市内産業売上高」は、令和6年度2,500億円を目標としていました。達成状況を確認するための経済センサス活動調査は5年周期で行われており、直近の結果は令和3年度の調査になります。そのため、令和3年度の実績で見ることになりますが、3,097億円となり、目標を上回りました。次に「石狩湾新港地域における立地企業数」については令和6年度800社を目標としていましたが、実績は771社（達成率は96%）であり、目標には届きませんでした。着実に増加しております。

8ページの「②KPI」をご覧ください。全部で17項目あり、達成は9項目（53%）、未達成は8項目（47%）でした。約5割の達成でしたが、地場製品の知名度向上や物流・エネルギーなど多様な産業が集積するエリアの形成に向けた取組は、概ね目標を達成しており、地域経済の活性化に寄与していると考えます。また、地元農産物を活用した加工品の開発がなされ、売上の増加や販路拡大に結びついており、地場農産物を扱う「地物市場とれのさと」の販売額も好調が続いています。今後も地域農業・漁業の持続的な発展のためには、より積極的な地産地消の取組や農水産物の魅力的な商品の開発と情報発信が必要であると考えます。石狩湾新港地域内（石狩市域）への新規立地企業数は順調に増加傾向にあり、洋上風力発電関連企業の誘致や脱炭素型の地域づくりを通じた再生可能エネルギーの推進は、社会情勢の変化をとらえた取組であることから、今後も継続していくことが重要であると考えます。

9ページ「(4) 戦略目標4「いろんな顔」をつくる」をご覧ください。資料2において対応するページは、9、10ページになります。「①数値目標」ですが、「交流人口数（観光客等入込数）」について、令和6年度270万人を目標としていましたが、令和6年度の実績は227万人であり、未達成ではありましたが、令和2年度の約157万人からは、70万人ほどの増加となりました。次に「地域の資源を見つけ、価値を創造し、魅力あるまちにしていこうための集まりに参加している（参加したいと思う）市民の割合」について、こちらは市民意識調査によるものですが、令和6年度50%を目標としていましたが、実績は22.0%でこちらも未達成となりました。10ページの「②KPI」をご覧ください。全部で7項目あり、達成は3項目（43%）、未達成は4項目（57%）でした。約4割の達成に留まりましたが、各種施設やイベントの入込数を指標とする項目が、新型コロナウイルス感染症の拡大により閉館や中止、延期となったことが大きく影響しております。ただし、新型コロナウイルス感染症収束後の道の駅の入込数などは順調に推移しており、厚田キャンプ場のリニューアル等の影響も受けて、周辺地域には人の流れができるなどの波及効果がありました。第3期総合戦略においては、デジタルの力を活用した周知やPRの取組を予定しており、引続き他の地域から「人」を呼び込むことのできるまちを目指します。

11ページ「(5) 戦略目標5 誇りとなる「人や文化」を育てる」をご覧ください。資料2において対応するページは、11～14ページになります。「①数値目標」ですが、「転入・転出者数の均衡（転入者数から転出者数を減じた数）」について、令和6年度100人を目標としていましたが、令和6年度の実績は68人と目標には届きませんでした。しかし令和2年度から令和5年度までは目標を大きく上回っており、平成30年度から昨年度まで、7年連続で転入超過が続いております。次に「石狩市が好きと感じる市民の割合」

について、こちらは市民意識調査によるものですが、令和6年度100%を目標としていましたが、実績は84.9%で、目標には届きませんでした。12ページの「②KPI」をご覧ください。全部で13項目あり、達成は6項目(46%)、未達成は7項目(54%)でした。約5割の達成となり、スポーツイベントの開催数・参加者数や三大秋祭りの入込数などは、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う事業の中止により、特に令和2年度から令和3年度は大きな影響を受けましたが、感染症収束後は回復してきております。地域おこし協力隊は、観光や自然、音楽など多岐にわたる分野で活躍し、地域の活性化に大きく寄与しており、引き続き各隊員の個性を活かした活動を支援していきます。また、移住相談会へ出展し、本市の積極的なPRを行うことで、より多くの人材が本市へ移住してもらえるよう、引続き移住定住事業を推進していく必要があると考えます。

13ページ「(6) 戦略目標6 時代にあった地域として持続する」をご覧ください。資料2において対応するページは、15～17ページになります。「①数値目標」ですが、「令和6年末における人口」について、令和6年度56,000人を目標としていましたが、令和6年度の人口は56,954人で目標達成となりました。次に「これからも石狩市に住み続けたいと思う市民の割合」について、こちらは市民意識調査によるものですが、令和6年度100%を目標としていましたが、実績は79.4%で、目標には届きませんでした。約8割を維持している状況です。14ページの「②KPI」をご覧ください。全部で10項目あり、達成は7項目(70%)、未達成は3項目(30%)でした。ウェブGISの災害ツールとしての活用の推進や、遊休公共財産の計画的なマネジメントに努めたほか、近隣市町村との連携強化を図り効果的に事業を実施することで、地域の生活環境の向上に繋がったと考えます。第3期では広域のデジタル人材育成、確保に係る取組を追加しており、近隣市町村との連携強化を図りながら、引続き人口減少社会に的確に対応します。

以上が「4. 各戦略目標について」の説明となります。

それでは、恐れ入りますが2ページへお戻りいただき、「3. 総合戦略の総括」をご覧ください。図2は、6つの戦略目標ごとに数値目標を2項目ずつ設定しておりますが、全12項目の数値目標の達成割合を示したもので、図3は、6つの戦略目標、全65項目のKPIの達成割合を示したものです。数値目標については、達成33%、未達成67%、KPIについては、達成45%、未達成55%という結果になりました。この数値目標及びKPIの達成率については、昨年度、第3期総合戦略策定時に想定していた第2期総合戦略の各目標に対する実績値と大きな相違はなく、今回の実績に基づく、第3期総合戦略の見直しの必要は無いと考えております。各戦略目標の評価については、3ページ以降に記載しておりますが、全体を通して特に成果が見られた取組は、次の5点が挙げられます。1点目ですが、戦略目標2の内、妊娠や出産の希望をかなえる支援の充実に向けた取組。2点目、戦略目標3の内、地場産品の知名度向上に向けた取組。3点目、戦略目標4の内、石狩湾新港地域における多様な産業集積エリアの形成に向けた取組。4点目、戦略目標5の内、移住定住の推進に向けた取組。5点目、戦略目標6の内、ICTを有効活用した行政サービスの構築や遊休公共財産の有効活用に向けた取組。一方、目標未達成の項目については、主に次のような課題が挙げられます。戦略目標1の「新現役世代の地域活動への参加」については、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う事業の中止以外に、運営者の高齢化や後継者不足なども参加者数の伸び悩みの要因であったことから、関係機関等とも連携し、適切な運営方法の検討が必要である。戦略目標2の「若い世代の出会いを通じた地域活力の醸成」については、若年層の晩婚化・未婚化といった社会課題に加えて、ニーズのミスマッチなどもあったことから、ニーズに即した事業内容や情報発信の検討が必要である。全体を通して、各種イベントの入込客数については、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う中止が影響しているが、感染拡大前の水準に回復していないものもあることから、内容の充実はもちろんのこと、幅広い年代が楽しめるイベントの継続に資する取組も必要である。

以上のことから、目標達成のための課題があることを改めて認識した上で、時代の変化に適切に対応しながら「第3期石狩市創生総合戦略」を推進し、人口減少の緩和、及び、地域経済の発展に繋げていくこ

とが重要であると考えます。

以上で、資料3、「石狩市まち・ひと・しごと創生総合戦略の総括について」の説明を終わります。私からは以上です。

【角川会長】

ただいま、事務局から説明がありました、議題①「令和6年度実施事業の点検・評価」について、この総括、分かりやすくまとまっているなと思いますけども、まずはご意見等ございましたら、この総括についてご意見等をお願いいたします。ただ、前回、前々回とKPIのあり方とか目標値については是非とか、達成に向けての取組の是非等についてはご議論いただいたとっておりますので、この総括の全体的なところについてのご質問をさせていただきたいと思います。どなたかお持ちの方いらっしゃいますか。

<意見等無し>

もしなければ、お時間も14時半までということで限られておりますので、お一人ずつ、各戦略目標についてが中心になりますが、順番にお聞きしたいとっております。その間に、最後、包括的なことで何かあればお伺いしたいですし、お一人毎のご意見の中に盛り込んでいただいても一向に構いませんので、そういった流れで進めさせていただきたいと思います。時間も限られるので、お一人1分少々かなと思っております。

まず、戦略目標の1についてですが、「新現役世代が活躍する」ということですけれども、釣本委員に聞きたいのですが、市民や団体による各種講座とか集会など、比較的高齢の方を対象とした活動とか、地域活動等の近年の振り返りで、もし思うことがございましたらいただきたいと思います。

【釣本委員】

達成率はですね、50%を切っているものが結構ありますけれども、やはり元々の目標が少し高すぎたのかなという気がします。達成可能な目標を最初から定めておいた方が良かったのではないかなと思います。しかし、中には8割方達成しているものもありますので、まあまあできているのではないかなと考えます。

次に、民間の色々な地域活動がありますけれども、どれもなかなか長続きしておらず、私もいくつも地域活動に入りましたが、途中でその会が解散、自然消滅に至ることがありますので、もう少し行政がバックアップしていただくと、地域活動がやりやすいかなと思っております。

また、私の運営する事業につきまして、一緒に活動している方が自宅を出て滋賀県へ移住されるということで、その自宅をプレゼントされ、それを利用して、絵本図書館と子ども食堂と地域サロン、それから今まで続けているフードバンクなどの活動を行う、総合的な活動の場にしたいと思っており、8月に入ったら、着手していこうと思っております。

【角川会長】

ありがとうございます。子ども食堂は各地でかなり広がっていますよね。札幌もあります、石狩でそういう活動、実際に私も活動している人のお手伝いをさせていただきましたことがあり、どんどんこういった広がりが続けば良いなと感じたところです。

戦略目標2「子育て力をさらに発揮する」について、秋田谷委員に伺います。子育て世代、私もまだそうですね、市民や団体による各種講座や集会について、子どもたちを対象とした活動や、地域の活動等の近年の振り返りなんかもあれば、お聞かせいただきたいと思います。

【秋田谷委員】

私は仕事でもまちづくりという観点から、子どもが参加するイベント、色々企画させていただいておりましたが、最近では昔と違って親子で参加できる講座等が人気な気がします。中には良くも悪くも親離れ、子離れができてない感じは見受けられますが、私もそうですが、最近では働いている親御さんが多く、お子さんと過ごす時間はすごく貴重なものになっています。石狩市でも色々なイベントをやっていますが、そういったことにどんどん参加していくと、子ども達にこのまちは楽しいという思い出が残ると思います。そうすると、やはり大人になってどこか違うまちで暮らしていても、結婚して子どもができればこっちで戻ってきて子育てするという、そういう環境になっていると良いと思いますので、石狩市と私たちNPOなどが一緒に協働して、地元愛を育成するような色々な講座ができれば良いと思っています。

【角川会長】

ありがとうございます。カムバックサーモンというわけではないですけど、段々子ども達が戻ってきていただけるような、魅力的なまちになってくれればと思っています。

続きまして、戦略目標の3ですが、石狩湾新港や新港地域における取組を中心に、ご意見あれば高宮委員にお願いいたします。

【高宮委員】

「地域資源からモノや仕事を作る」という数値目標に800社が入っているということについて、私はとても新港地域に対して期待していますし、この地域が石狩を引っ張っていくと思っています。その部分で質問しますが、会社の産業の内訳、大体は物流関係事業者でしょうけれども、最近では電力関係の事業者が色々立地してきており、この立地企業の傾向として何か変わってきているものがあれば教えてください。

【事務局長（小島部長）】

データとして直近の傾向を抑えているものはございませんが、製造、物流という部分は従来通りの部分ではございまして、近年の取組で言いますと、市における再エネの地産地活の取組がございまして、その事業に伴います発電事業者、再エネの発電事業者の立地ですとか、また、その再エネを活用したデータセンターの立地、最近で言いますと、ご存知のとおり京セラコミュニケーションや、東急不動産をはじめとしたデータセンターなどが立地しているというような、そんな情報が見受けられる状況でございます。

【高宮委員】

まさにデータセンター、AIの普及ということで電力がさらに必要となってくるとなれば、この地域というのは石狩だけではなく、道央圏のエネルギーの製造元になっていくのではと考えており、石狩市も違う意味でのあり方が考えられるのかなという大変期待を持っているところです。ぜひ頑張ってくださいと思っています。

【角川会長】

引き続き、戦略目標3について、石上委員に伺いたいのですが、若い労働者からの労働環境とか、要望に対して、何か取組があればお聞かせいただきたいと思っています。

【石上委員】

若い労働者に対するアプローチということで申し上げますと、せっかく振っていただきましたが、なかなか今すぐ出てくるものがなくて恐縮ですが、前もお話したかもしれないですけども、若い人だけに限った話ではありませんが、1つの職場にとどまらない、次へ次へと進んでいくというところは、日毎にその勢いが加速しているなどというのは、私も身をもって感じていると言いますか、そういう話を聞くことがどんどん増えてきているなど思っております。1つの職場、うちの職場に残ってもらうところを考えるのはだんだん難しくなってきたのかもしれないです。そうすると、やはりその職場だけで頑張るのではなくて、地域も一体となって、このまちに残ってもらうと言いますか、地域にいてもらえるような、そういうアプローチも必要なのかなと感じているところです。

【角川会長】

私も若い人の就職斡旋みたいなことをしていますが、やはり給料が良いとか、条件が良いところに当然移っていくことが一般ですが、ただ、若い人の中では、例えば土日が勤務だったら、車好きで車のイベントに土日出たいから、今の職場の給料はすごく良いけれども、下がってもいいから転職したいという人もおり、昔と転職とか就職の価値観が変わってきたかなと思っております。時間よりもお金、お金よりも時間といった価値観があると思いますが、例えば今言ったような価値観のほかに、友達と遊べるのが大事、あるいは誰と仕事するかが大事、友達と一緒に就職するのが大事、といったかつては考えられないような要望もあり、結構驚かされます。でも、そういう時代の変化というのは受け入れていかないと、定着というのはしないのかなと考えており、企業側も、もちろん自治体も含めて、今の人の考え方にも合わせていかなければならないのかなと考えています。

続きまして、同じ戦略目標3の中で観光ということにありますので、観光協会の野村委員に現在の観光産業や最近の変化や状況を教えていただきたいです。

【野村委員】

最近の観光産業の変化ですと、例えば、今ちょうど石狩市海水浴場のシーズンですけども、正直、年々入込数がどんどん下がっている状況で、今年はシーズンが始まって3分の1ぐらい経っていますが、車が満車になる気配はないです。先週末は雨が降りしょうがないかなというところではあります。その前の週は天気も良かったものの、900数十台程度しか来ていません。最大で1,500台から1,700台ぐらい入る駐車場ですが、半分行くかどうかという状況です。私が入社した10数年前であれば、この時期でも満車ギリギリになるような日も多かった印象でしたが、全くそういった気配もないです。夏休みが始まると結構お客さん増えるはずなのですが、今日もそこまで暑すぎず、天気が良く丁度良い日でも、そこまでも賑わうというほどにはなっていない。一方で、手稲のプールですとか、ガトーキングダムサッポロさんはものすごく賑わっていると聞いています。年々海離れが広がっているというのは全国的に言われているようですが、石狩市の夏の観光資源の大きな要素の1つである海水浴場が、段々弱まってきていると身をもって感じています。海離れの理由ですが、砂がつくのが嫌だとか、潮水でベタつくのが嫌だと、根本的にそういうことを言われてしまっており、なかなかどう海で楽しんでもらうか、海水浴以外のことを考えて提案すべきなのか、頭が痛いところです。その一方で、お客さんから「テントサウナを海水浴場でやっていいですか」という、初めて問い合わせが来たのですけれども、時代の流れでテントサウナも個人で購入してできる時代になったと、問い合わせを聞いて思いました。時代の流れに沿って、新しい事業というのを考えなければいけないのかなとも思っていますが、なかなか難しいです。

【角川会長】

確かに私の子ども、うちも小さいですが、砂が嫌だと言います。テントサウナですか、そういった新たな娯楽が生まれる一方で、海水浴という部分はウェイトが下がってしまっているかもしれません。紫外線の問題もあるとは思いますが、それらに合わせて、今の時代の流れに合わせて、何か変化させる必要がありますね。これしかないと思っています。

続けて商工会議所女性会副会長の伊藤委員に伺います。地域経済だとか、商工会議所副会長として感じることで、行政の課題と感ずること等あれば教えて下さい。

【伊藤委員】

私自身も、市内で旅行会社を営んでおまして、色々感ずるのは、様々なイベントやツアーの告知、PRの難しさというのを大変感ずる機会が多くなっております。昔のように回覧板を回せば誰も見るとするのは時代ではなく、回覧板はもういらぬというご家庭も多いです。また、ホームページは、自分から見に行く人でなければ、なかなか入ってくる情報ではないので、そういったPR活動がとて難しいと感ずます。商工会、女性会のイベントもそうですけれども、どうやったら多くの人にこのメッセージが届くのかというのが1つの課題になっているような気がいたします。

そこで今回、この計画に関して、市民意識についてのアンケートがあったと思われませんが、実は私も20年近く石狩市内に住んでおりますけれども、そういったアンケートがあるということ自体、恥ずかしながら全く存じ上げませんで、来ていたのかもしれないけど答えた記憶がないという感ずです。前回伺った時に、何名ぐらゐに出されて大体何パーセントの回答率なのかということをお教えもらい、その回答率の低さに少しびっくりしたという事情がございました。30%前後の方しか回答が得られていない中で、100%達成しましたというのが果たして市民の何人に該当するのかなという部分も考えてみても良いのかなという意見です。

【角川会長】

アンケートの件、前回もお話があったかと思いますが、あらためて事務局から回答をお願いします。

【事務局（大川課長）】

アンケートですが、毎年無作為抽出にて3,000人を調査しており、昨年は35.2%という回答率になっています。このアンケート以外にも、市で様々なアンケート調査を行いますが、大体30%、3割ぐらゐというのが多く、企業向けに行った場合もそういった状況でした。私も仕事の中で色々なコンサル会社とお話ししても、回答率3割が1つの指標で、3割行けば良いというようなお話はされますので、その中で3割5分というのは妥当なのかどうかというところであり、なんとも言えないところもありますけれども、こういうアンケートの取り方については今後も研究をしながら、回答してもらえぬようなものを研究していきたいと思っています。

【角川会長】

ありがとうございます。続きまして、戦略目標の3および4のうち、少し地域を限定させていただきます。厚田の事業や環境の変化について、こちら小山さんからお話しいただけますでしょうか。

【小山委員】

厚田も海水浴のシーズンですけれども、暑さのためお客様が来ぬのかなとも感ずます。厚田のプールもありますけれども、先日、校長先生のお話によりますと、お水の温度が高すぎてプールを使えぬとい

う状態が続いているということで、せっかくの夏休みにお子さんたちが利用できないのが少し残念だなと思いました。お客様も減っているということは、やはり気候の変化もあるのかなと感じております。

それから、厚田の協議会で話題になっている火葬場について、浜益もそうですけれども、利用する方がいらっしゃらないので、石狩の火葬場に統合するということですね。それも地域でアンケート取っております。それから、中央バスが厚田まで来なくなるということで、今後お年寄りが病院とかに通院されるときは、乗り換えが必要となりますが、足腰が悪いので乗り換えはとても大変だということをこの間、地区の説明会にてお話しておりました。ですから、少し大変なことは多くなってきているなと思います。厚田の給食センターも3月で廃止となり、石狩の給食センターに集約されました。

次に地域おこし協力隊について、今2名が活動してまして、1名は来年の春に卒業で、道の駅に置くためのタコ飯の継承ということで、もう完全に作り方をマスターして納品しています。それからもう1人の方は、この4月から熊本からいらっしゃった女性で、招いた目的が道の駅で活躍してもらおうということでしたが、色々なことで活躍しております。それから集落支援員ですが、この方も地元に住んでおり、去年、みんなの居場所作りってことで、「あつみん」と言いますが、何回かやまして、今年も夏休みに親子でカレーライスを作るイベントなど、色々計画しているみたいです。それぞれに地元の方、お母さん方とお子さん方が関わるイベントで、さっき秋田谷さんも言うておられましたけれども、やはり働いているから親子の時間が取れないということで、その時間を作るのに良いイベントなのかなと感じております。

【角川会長】

続きまして、戦略目標5について、京セラコミュニケーションの尾方委員にお尋ねしますが、デジタルを活用した各種施策とかその変化などについてお願いいたします。

【尾方委員】

いただいた内容を見るとデジタル化の施策は進んでいると理解としているのですが、大事なことは、やはり実際に市民の方も含めて実感があるかどうかだと思っております。まだまだ取り組めることはたくさんある状況と捉えているので、よりデジタル化に関する施策を説明し、もっとよく知ってもらうことが必要で、より効率的に何か進めるという部分については、ITの活用で非常にメリットがあると思うので、そういう実感が湧くようなことを増やしていくことが重要と考えています。

【角川会長】

続きまして、戦略目標6について、河野委員、ご自由にお話ください。

【河野委員】

私どもの仕事は、最近AIが非常に盛んになってきてまして、インタビューの録音を文字起こす、というようなことは当然AIで行ってまいりました。格段に仕事の効率が上がっております。

次に、これからの広報誌のあり方ということについて言えば、デジタルと紙のハイブリッドを続けていくということだと思います。このことについては時間をかけながら進めているところです。

あと、1つ報告させてください。本市の2024年11月の広報誌がコンクールで最優秀賞を取りました。「里親制度」の特集を出したものですけれども、今まで優秀賞は何回も取ってまいりましたが、最優秀賞というのはこれが初めてでございます。それはやはり里親制度、石狩独自の里親制度というのが素晴らしいということなのだと思います。やはり私たちの石狩市をもっと輝かせるようなという、自慢できるような色々なことをこの会議の中からも発信していければ良いと思いますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

【角川会長】

最優秀賞おめでとうございます。次に、金融機関の皆様、全体を通して一言ずつお願いしたいと思えます。まずは、北海道信用金庫の林支店長からお願いします。

【林委員】

第2期は令和2年度から令和6年度ですが、5年間のうち半分がコロナでほとんど実施できなかったという中で、これだけの達成率を出せたというのは、充分評価できることではないかと思えます。私を感じたこととしては、戦略目標のところ「石狩市が好きと感じる市民の割合」がありますけど、確かに高いですけど、住みたくない人、好きではなくて嫌いだと回答する人もいるということで、その人の声、具体的にどういうことでそう感じているのかなという風に聞いてみたいなと思えます。最後に、先ほどの市民調査ですけれども、会社関係に、弊金庫でも石狩市に住んでいる人が半分近くおりますので、そういうところにまとめて調査してもらったら、かなり多くの回答が貰えるのではないかなと思えますので、もし良ければご検討ください。

【角川会長】

続きまして、北海道銀行の石田営業部長、お願いいたします。

【石田委員】

私が今楽しみにしているのは、花川通がこの秋に延伸されるということで、先ほど高宮様からも石狩湾新港の企業立地の話がありましたけど、新港企業からも人が集まりづらいということをよく聞いております。そういう意味で言うと、花川通が伸びると通勤もしやすくなりますし、あの辺に住居等が整備されるということになれば、石狩市に住んで新港で働くという人が増えるのではないかということで、そういうことが起こると良いなと個人的に思っております。

【角川会長】

今延伸の工事中ですが、楽しみなところですよ。続きまして、北洋銀行の中野支店長、お願いします。

【中野委員】

まず、市の施策について、僕も林支店長と同じように、よくこれだけのことをやれたなと感じております。金融機関ですので、データについて、出てきた数字等を見ていて思ったことですが、新港の企業数は増えているものの、転入数は減っている、ということは、企業立地増で職場が増えているものの、住む人は増えてないということです。これは多分ヒントになる数字なのかなと思えます。転出は1,900人前後ぐらい、例年大体そのぐらいなので、出ていく人は変わらない、ここはあまり気にしないでいい、ということにはならないのかもしれないですけど、その程度なのだろうと思えます。転入について、その企業立地数と相関関係があまりないというのは、今後のどうやって人を定着させるかというヒントなのかなと思っております。

あと、「石狩市に住みたい」とか「好き」という人が8割を占めるというのは良いことであると思えますが、一方で、色々な集まりだとか、経験を活かしたりするのに参加したいという人は4割とか5割まで下がります。これも日本人的だなと思えますが、さらに価値創造とか魅力あるまちづくりに参加する割合は2割まで大きく落ちる。なんとなくそういう、好きだし住みたいけど、このまちをもっと魅力あるものにしたいという形でハードルが上がると、一気に参加しないという回答が増える、そういう意識の方が多いいというのは、また1つのポイントだと思います。ここが上がると、住民が定着する人が増え

るのかなと考えます。そういう感じで、数字の読み方はそれぞれですが、なんとなく僕はすごく思ったので、これがヒントになればいいかなという感想です。

【角川会長】

最後に、オブザーバーとしてご参加いただいております北海道石狩振興局地域創生部長の矢野様から一言いただければと思います。

【オブザーバー（北海道石狩振興局地域創生部長 矢野氏）】

総括していただいているページの中で、少し別の観点にてお話させていただきたいと思います。目標を達成するという事はもちろん大事ですが、私は、その2ページ目の下段にあるとおり、どういう成果がみられたか、あとは課題整理しているか、ここが一番重要だと思っております。伸びた部分に関しては、私石狩市民ではないので、外から石狩を見た感想ですが、特徴と合っていると感想としては思いましたので、こちらの取組が合致しているのかなとと思っているところです。課題については、目標達成できなかった部分の課題についても、社会的にも課題となっている部分がとても多い部分で、なかなか解決は難しいところではありますけれども、こちらでも分析をされた上で、例えば、若者のニーズに即した事業内容や業務の検討が必要であるということで、次期のやり方についても触れられており、こちらの取組に沿って、また次期の戦略を進めていただければと思っています。

【角川会長】

この総括はすごく見やすいと思います。私も今までこれはあまり見たことがなかったです。まとめた以上、一步でも次に進め、活かすという取り組み、絶対必要です。これを次に繋げていければと思っています。

それでは次に次第「3 その他」ということになりますけれども、全体を通しましてご意見ご質問等ありましたらお聞かせください。

<意見等無し>

それでは、事務局からの連絡事項等お願いいたします。

【事務局（平野主任）】

はい。事務局から3点ご連絡いたします。

1点目、令和7年6月、これまでの地方創生の成果を継承・発展させるため、「強い」経済と「豊かな」生活環境の基盤に支えられる多様性の好循環をつくり「新しい日本・楽しい日本」を創ることを目指し、石破政権によって「地方創生 2.0 基本構想」が閣議決定されました。この点につきましては、今後の北海道における総合戦略との整合を図りながら、必要な見直しを行っていくこととします。

2点目、本日の会議録についてですが、事務局で作成し、会長にご確認いただいたあと、皆様に配布いたします。

3点目ですが、今年度2回目の懇話会は、市内を視察するフィールドワークを予定しております。日程等、詳細はあらためてご連絡させていただきますので、よろしくをお願いいたします。

事務局からは以上です。

【角川会長】

昨年度はフィールドワークをやらなかったのですが、色々な企業さんの取組を現地で見学するというか、お話を直接聞くという形で、非常に楽しいというか参加しごたえがあります。是非日程等が決まり

ましたら、ご参加をお願いいたします。それでは以上をもちまして、令和7年度第1回の石狩市総合戦略推進懇話会を終了いたします。

令和7年 9月 / 日 議事録確定

石狩市総合戦略推進懇話会 会長

角川 幸治